

平成 30 年 6 月 6 日現在

機関番号：24501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02488

研究課題名(和文)主節現象の統合的説明に向けた研究：話題化構文を中心に

研究課題名(英文) Toward a unified account of root phenomena: with focus on topicalization

研究代表者

那須 紀夫 (NASU, Norio)

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：00347519

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、以下の成果が得られた。(1) 裸主題が最も強い主節指向性を示す一方で、対照主題が最も弱い主節指向性を示すことが明らかになった。両者の中間に位置するもののうち、場面設定主題よりも題目の方が相対的に強い主節指向性があることが確認された。(2) 話題化を許す従属節は位相になるが、許さない従属節は位相にならないことが判明した。(3) 題目と場面設定主題は演算子移動に干渉するが、対照主題は干渉しないことが判明した。(4) 題目が極小主義生成理論における探査子・目標関係によって認可されることを示した。(5) 主節指向性が極端に強い要素が、主節特有の階層である発話行為句に生起することを立証した。

研究成果の概要(英文)：The result of this study is as follows: (1) Bare topics exhibit the greatest degree of root-orientation, whereas contrastive topics exhibit the lowest degree of root-orientation. Among topic expressions categorized in between, thematic topics exhibit higher degree of root-orientation than scene-setting topics. (2) Subordinate clauses tolerating topicalization constitute phases, whereas those which resist it do not. (3) Thematic and scene-setting topics interact with operator movement, whereas contrastive topics do not. (4) A thematic topic is licensed via a probe-goal relation postulated in the minimalist theory in generative grammar. (5) An element with extremely strong root-orientation occurs in Speech Act Phrase, which is unique to a root clause.

研究分野：理論言語学、統語論

キーワード：主節現象 話題化 節構造 カートグラフィー

1. 研究開始当初の背景

主節現象は、主節指向が強く埋め込みを許さないタイプ(便宜上強い主節現象と呼ぶ)と、ある種の従属節には出現可能なタイプ(弱い主節現象と呼ぶ)に大別される。従来の研究では弱い主節現象に焦点が当てられ、これを許容する従属節に共通する文法的特徴を特定することに関心が寄せられてきた。一方、呼びかけ表現等の強い主節現象は、対話に現れることが多いため、談話や運用レベルの現象と考えられ、生成理論における文構造研究の対象外とされる傾向が強かった。

しかし、文の外縁部の構造に関する研究が進むにつれて、呼びかけ表現や文頭の談話標識のような強い主節現象にも関心が向けられるようになり、これらが句構造の一般原理(階層性、局所性、一致など)に従うとの報告がなされてきた。

弱い主節現象だけでなく強い主節現象も視野に入れて問題を再考する必要性が指摘される一方で、両者に統一的な説明が与えられるか否かについては、今のところ意見の一致が見られない。とりわけ未解決の課題として残っているのが、主節指向性の強弱の違いがどこから生じるのかという問題である。本研究はこの課題に取り組み、二種類の主節現象に対して統一的な説明を与えることを目指す。

2. 研究の目的

主節に現れやすく従属節には現れにくい現象群を総称して主節現象と呼ぶ。この現象は主節への限定の度合い(主節指向性)の違いによって二種類に分類できる。本研究の主たる目的は、話題化構文の分析を通して主節指向性の違いをもたらす要因を解明することである。

具体的には、主節指向性の異なる話題要素を比較し、これらに課される統語的・談話的制約を明らかにすることによって、二種類の主節現象を統一的に扱える説明原理の構築を目指す。

研究の理論的枠組みとしては、生成文法理論、とりわけカートグラフィー研究における句構造理論を採用する。

3. 研究の方法

日本語には場面設定、題目、対比など、多種多様な話題要素が存在するが、埋め込みの可否や埋め込みの従属節のタイプに違いが見られ、埋め込みが全く許されないものから、節によっては埋め込みが許されるものまで、その分布は様々である。

これは話題化構文が均質なクラスを成すのではなく、話題要素ごとに主節指向性の度合いが異なることを示唆している。したがって、各種話題化構文を詳細に比較することでこの差異をもたらす原因を特定できれば、それを主節現象全般に応用して、強い主節現象と弱い主節現象を統一的に説明する原理を見出すことが可能になると考えられる。

このような予測に基づき、本研究では次の三つの課題(A)(B)(C)を設定する。

(A) 各種話題要素の出現環境を精査し、主節指向性の度合いを明らかにする。

(B) 主節指向の強い話題要素と弱い話題要素それぞれに課される文法的制約を解明する。

(C) 主節指向の強弱をもたらす要因を特定し、主節現象全般を統一的に扱う可能性を探る。

課題(A)に関して:まず、分析対象の範囲を明確にするために、各種話題要素をリストアップして類別を行う。同時に従属節の類別化も行い、それらの文法的特徴を整理しておく。それを踏まえて、節のどの階層にどのタイプの話題要素が出現できるかを調査し、話題要素ごとの主節指向性の差異を特定する。

課題(B)に関して:弱い主節現象に該当する話題要素の出現に影響を与えるとされる三つの文法的制約——即ち(i)当該話題要素を擁する階層の有無、(ii)演算子移動が関係する介在効果の有無、(iii)認識的モダリティの存在——が、強い主節現象に該当する話題要素(裸主題など)に対してどのように働くのかを網羅的に検証する。

課題(C)に関して:主節には話し手から聞き手への発話伝達様式を文法化する階層「発話行為句(Speech Act Phrase; SAP)」があり、強い主節現象はこの階層に現れるとの仮説を立て、その妥当性を検証する。特に課題(B)で扱った文法的制約が、SAPモデルとどのように対応するのかを検討する。

4. 研究成果

本研究の成果は以下の通りである。

題目、対照主題、状況主題、および裸主題が、主節に加えてどのタイプの従属節に出現するのかを調べた。その結果、裸主題が最も強い主節指向性を示す一方で、対照主題が最も弱い主節指向性を示すことが明らかになった。また、両者の中間に位置するもののうち、場面設定主題に比べると題目の方が相対的に強い主節指向性を示すことが確認された。〔課題(A)に関連〕

話題要素の出現を左右する三つの要因の働き方を調査した。〔課題 (B) に関連〕

(i) 話題要素を要する階層の特徴: 統語派生のサイクルとなる位相としての資格の有無という観点から、話題化を許す従属節と許さない従属節の構造を比較した結果、前者が完全な構造を持ちかつ位相となるのに対して、不完全な構造しか持たない後者が位相にならないことが判明した。

(ii) 演算子移動が関係する介在効果の有無: 題目および場面設定主題は演算子移動に干渉するが、対照主題は干渉しないことが判明した。また、話題要素同士の干渉関係を調査したところ、題目と場面設定主題の間には相互干渉が見られたが、対照主題が干渉効果を示すことはなく、演算子要素との干渉関係のパターンとの並行性が見られた。

(iii) 認知的モダリティの存在: 通常題目を許容しないタイプの従属節でも、題目を許容するタイプの従属節をその内部に包含している場合に限って、題目の生起を許容することがあることを発見した。この構造関係が極小主義生成理論における探査子・目標関係に還元できることを示した。

主節指向性が極端に強い要素が、主節特有の階層である SAP に生起することを立証した。話題要素だけでなく丁寧語形式「ます」もまた強い主節指向性を示すことに着目し、その分布が SAP が関与する認可システムによって説明できることが分かった。〔課題 (C) に関連〕

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

NASU, Norio. 2015. "Embedded main clause phenomena, structural reduction, and intervention at the periphery." *Case and Agreement in Minimalism: Proceedings of the 17th Seoul International Conference on Generative Grammar*. 344-363. Seoul: The Korean Generative Grammar Circle.

NASU, Norio. 2016. "On the distribution of speaker-oriented adverbs in conditional clauses." *Beyond Core Syntax: A Minimalist Approach, Proceedings of the 18th Seoul International Conference on Generative Grammar*. 430-449. Seoul: The Korean Generative Grammar Circle.

NASU, Norio. 2017. "Anti-topicalization in embedded contexts." *Proceedings of the 12th Workshop on Altaic Formal Linguistics*. 219-230. Cambridge, Mass.: MIT Working Papers in Linguistics.

〔学会発表〕(計 7 件)

NASU, Norio. 2015. "Embedded main clause phenomena, structural reduction, and intervention at the periphery." *The 17th Seoul International Conference on Generative Grammar*. Seoul: Kyung Hee University. 2015 年 8 月 6 日.

那須紀夫. 2015. 「トピック、フォーカス、モダリティの相互関係について」日本英語学会第 33 回大会ワークショップ「周縁部の統語論と形態論」枚方市: 関西外国語大学. 2015 年 11 月 21 日.

NASU, Norio. 2016. "Topicalization in Japanese as a main clause phenomenon in disguise." *Formal Approaches to Japanese Linguistics* 8. Tsu: Mie University. 2016 年 2 月 19 日.

NASU, Norio. 2016. "Anti-topicalization in embedded contexts." *Workshop on Formal Altaic Linguistics* 12. Connecticut: Central Connecticut State University. 2016 年 5 月 13 日.

NASU, Norio. 2016. "On the distribution of speaker-oriented adverbs in conditional clauses." *The 18th Seoul International Conference on Generative Grammar*. Seoul: Sogang University. 2016 年 8 月 2 日.

NASU, Norio and YOSHIMOTO, Keisuke. 2016. "The completeness of clause structure as a condition on phasehood." *Brussels Conference on Generative Linguistics* 9. Brussels: Katholieke Universiteit Leuven. 2016 年 12 月 13 日.

YOSHIMOTO, Keisuke and NASU, Norio. 2017. "On long-distance licensing of the Japanese politeness marker *-mas-*." *Workshop on Altaic Formal Linguistics* 13. 2017 年 5 月 27 日.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

該当なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

那須 紀夫 (NASU, Norio)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：00347519

(2) 研究分担者

該当なし

(3) 連携研究者

該当なし

(4) 研究協力者

該当なし